

平成27年度4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成27年4月3日（金）午後3時15分～3時45分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ11社

会見内容

1. 話題提供（3項目）

1. 釧路市防災庁舎の落成式について

- 平成25年10月から工事を進めてまいりました「釧路市役所防災庁舎」が、3月11日に無事、完成いたしました。
- 業務開始は、ゴールデンウィーク明けの5月7日（木曜日）からを予定しているところでございますが、業務開始に先立ちまして、4月28日（火曜日）午後1時30分から国や北海道、市議会議員、設計・施工業者など、建設に携わった関係者の方々を招いて、釧路市役所防災庁舎の落成式を開催することといたしました。
- 式典の内容につきましては、防災庁舎正面玄関前でテープカットを行ったのち、防災庁舎1階展示ホールで施工業者等に対し感謝状の贈呈などを行います。また、日赤さかえ保育園の園児の皆さんに、保育園から防災庁舎5階避難所までの避難訓練を実施していただく予定となっております。
- 落成式に引き続き、地域の住民の方や一般市民の方を対象とした防災庁舎の内覧会（庁舎見学会）を午後3時30分から午後4時30分まで行う予定です。防災庁舎は、平常時、災害時を問わずに市民の皆様の対応の拠点となるものと考えておりますので、内覧会には多くの市民の方にご来庁いただければと思っております。

2. 平成27年度クルーズ旅客船の寄港予定について

- 5月3日（日）にフォーレンダム（61,214t、237.91m、定員1,404人）が、平成27年度最初の客船として耐震旅客船岸壁に入港し、10月13日（火）のぱしふいっくびいなす（26,594t、183,40m、定員476人）まで延べ8隻のクルーズ船の寄港が予定されております。
- 昨年の24回の寄港からは減少となってしまいますが、今年度も日本人観光客のほか、欧米やアジア各国からの観光客も釧路を訪れることとなります。

(満船状態では、乗船客11,146人／乗組員5,279人)

- 今年度は、新たに岸壁での歓迎用にのぼりを立てるほか、乗船客の皆さまをサポートするスタッフを見つけやすいようにするため、専用のジャンバーの着用や、西港第4埠頭での寄港の際には「フリーWi-Fiスポット」を設置するなど利便性の向上に努めます。
- クルーズ船の受け入れにおきましては、市民の皆さまや商店街など関係団体による盛り上がりを含めて、地域をあげてお迎えすることが大切であると思っており、3月24日にはクルーズ船受け入れに関する団体、出店業者の皆様を対象に説明会を開催し、また、4月6日には市内の商店街・振興会の皆様向けの説明会を開催させていただき予定となっております。
- 今後も、さまざまな情報を地域の皆様に提供しながら、おもてなしの機運の醸成に取り組んでまいりたいと思っております。

3. 広報くしろの民間WEBサイトへの掲載開始について

- 最後に、広報くしろについてのお知らせでございます。
- 広報くしろは、毎月発行しており、平成24年8月号からは、原則として全戸配布しています。その他、市ホームページへの掲載、支所やコア各館などの公共施設及び旧釧路市内の郵便局へ設置しております。
それに加えて、4月から2つの民間のWEBサイトに広報くしろを掲載することといたしました。
- ひとつは4月1日に開設しました「北海道の広報まるごと検索くん」、こちらは東洋印刷株式会社（本社：帯広市）が管理運営をしております。こちらは、すでに道央（札幌）版、道東版の検索サイトがありましたが、この4月1日から、全道を対象としたサイトに生まれ変わっております。
- もう一つは、すでに昨年度から運営されておりました「Hokkaido ebooks（北海道イーブックス）」という電子書籍ポータルサイトで、株式会社須田製版（本社：札幌市）が管理運営しております。
- どちらのサイトも、釧路地域のみならず全道各市の広報紙が電子書籍として掲載されております。広報紙の中に掲載されている、例えば「長期滞在」という言葉がインターネット上の検索にひっかかるということになりますので、より多くの媒体で釧路のことをお知らせできるいい機会になると考えております。

- すでにご案内のとおり、釧路市は「涼しくしろ」として全国にその名を広め、夏の長期滞在は4年連続で全道1位の実績となっております。

また、市内に2つの国立公園を持つなど、その類まれなる豊かな自然環境や恵まれた食資源、アイヌ文化の発信地など、観光地としても注目を浴びております。

- 今後も、より多くの皆さんが、それぞれの行動パターンに応じて、必要な情報にアクセスできるよう、釧路市の情報、魅力を積極的にPRしてまいります。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 広報くしろの民間WEBサイトへの掲載開始について教えてください。
これは、無料ですか有料ですか。また、市の方から掲載を依頼されたのでしょうか。

(事務局)

- ・ 無料です。両社とも、企業側から申し出があり、広報紙の掲載に応じたものです。

(質問)

- ・ クルーズ船の対応で港にW i - F i を設置する件ですが、海外の方は、滞在中に動物園などへも足を延ばすそうですが、フリーW i - F i が無い地区なので、情報収集やコミュニケーションに不便を感じていると聞いています。今後、観光施設などへも設置する計画などはあるのでしょうか。

(市長)

- ・ まだ、計画には至っていません。山花地区では、光通信が整備されていない状況ですが、携帯電話などの通信機能の活用なども考えています。環境を整えば観光客が撮る動画コンテンツなどを発信してもらえるので、リアルタイムで動画サイトへアップしてもらえるなどのPR効果があると考えています。
- ・ クルーズ船にもW i - F i はあるそうですが、船会社や旅行代理店へ第一義的に情報を伝えることが優先になっていて、船内のお客様へ予め到着地のまちの情報を伝えることは難しい状況です。船の情報通信の仕方とまちのコンテンツの違いはありますが、活用できる方法も探っていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 今般の組織・機構の改編で、コンパクトシティを担当する主幹職が設置されましたが、釧路市のコンパクトシティの考え方について、改めてお聞かせ下さい。

(市長)

- ・平成24年度に釧路市のコンパクトシティの考え方をまとめました。「生活」をキーワードにコンパクトな都市を目指すうえで、買い物、医療、金融機関、公共施設などが集積していることが生活の利便性を確保するうえで必要だろうと考えました。こういう機能が集積しているエリアを生活拠点として、足りなければ必要な機能を補完して拠点性を高めて、買い物難民や医療の問題を解決できるといった考え方でまとめたものになります。中心市街地を含めて8カ所を市内の拠点エリアと考えています。この考え方は、国土交通省の「コンパクト+ネットワーク」の考え方などともマッチングしており、今後、国の計画との関係においても、合致したものになると考えています。

(質問)

- ・そのエリアに阿寒地区は入っていないのでしょうか。

(市長)

- ・コンパクトなまちづくりは、都市計画に基づいて旧釧路エリアをどうするかという考え方になります。
- ・阿寒、音別エリアは地域の拠点性を考えながら別に進めたいと考えています。

(質問)

- ・IRの関係ですが、法案の再提出がされていない状況です。3月29日に山口沖縄北方大臣が小樽市内で講演されて、誘致先について、横浜や大阪が候補となっており、特に、大阪が有力だと発言されていることから、小樽市では、誘致活動を凍結するとの考え方を示されたとのことですが、このような中で、釧路市はどのように考えているのかお聞かせください。

(市長)

- ・IRは、国の中で、どういった位置づけを持つのかを議論して進めるべきと考えています。釧路においては、阿寒湖畔の入込が100万人から60万人に落ち込む中、通過型ではなく、滞在型にしようとして誘致活動をしてきたものです。世界140カ国以上にカジノがあるなかで、国では、これから国内で3,000万人の誘致を目指すということでもありますので、阿寒も滞在を促すコンテンツとして活用について手をあげているところです。IR＝マカオなどの巨大カジノのイメージがあるかと思いますが、阿寒が目指すのは、ローカルカジノで、北海道の自然にマッチングした形のものであり、新たに地域やIRの価値を高めるものと考えています。

国は、大阪、横浜という候補がある中で、阿寒もさまざまな良さを活かせるような提案をしていこうというものですので、小樽市の考え方に当市は、左右されるものではないと考えています。